

開通した一級国道46号線



県境に張られた紅白のテープに千田岩手県知事(右)、建設省一級国道課長(中央)、小畑秋田県知事(左)が揃ってハサミを入れた。

開通記念碑の除幕は、岩手・秋田両県土木部長の手で行なわれた



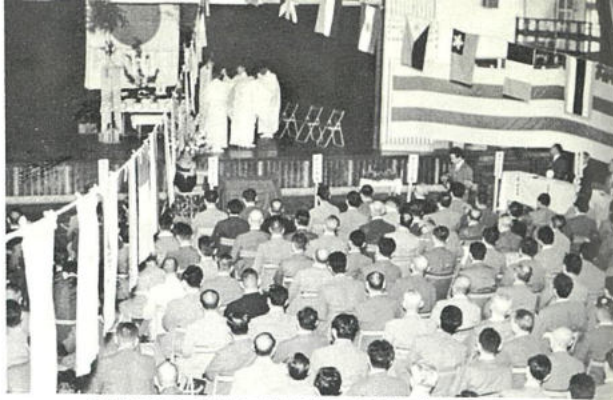
岩手県と秋田県を横断する「南八幡平パークライン」つまり一級国道四六号線が、七月一八日から開通しました。

この道路は七カ年の才月と一八億余円の巨費を投じて完成したものであり、雫石町から田沢湖町まで三四・八キロメートル、自動車で一時間盛岡市から角館まで七四キロメートル

ル、自動車で二時間、また盛岡市から秋田市までは一二四・七キロメートル、自動車で三時間半という距離に短縮されました。

開通の日には、岩手・秋田両県知事ははじめ多くの関係者、地元関係者が参列して、午前一〇時半から雫石町御神小学校で式典を行ない、そのあと仙岩峠まで自動車を連ねてパレード、仙岩峠で記念碑除幕式を行ない、両県知事がテープにハサミを入れ、開通を祝いました。

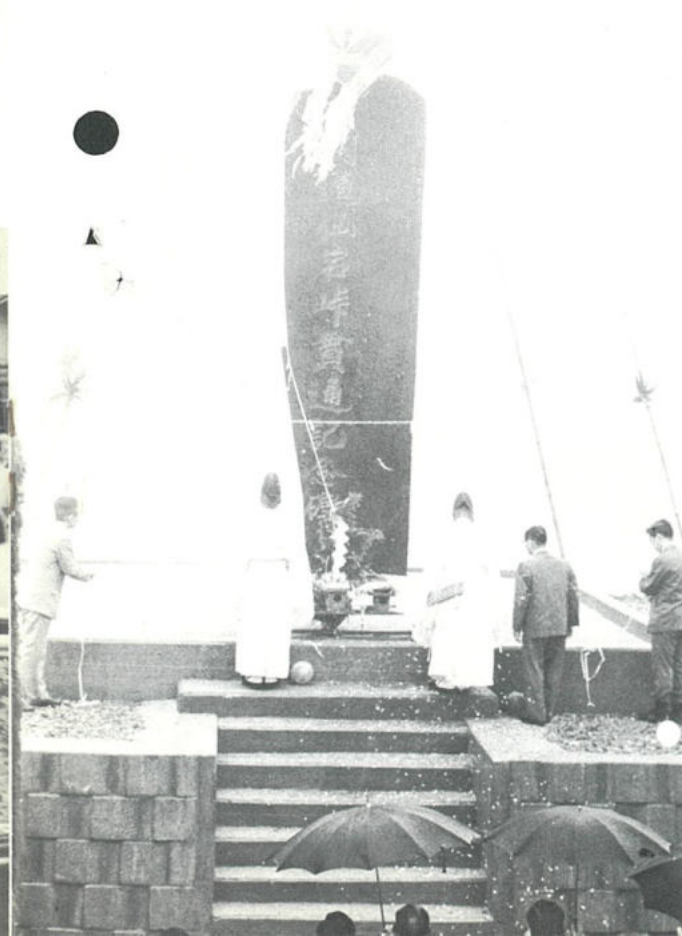
こうして、「秋田街道」、「南部街道」といわれた佐竹藩、南部藩の交通の要路は、南八幡平パークラインとして面目を一新して両県の文化経済面の交流、また観光ルートとして有望な路線となったのです。



開通記念式典には両県の関係者およそ400名が集まった。そのあと一行は県境まで車でパレードした



生保内に入ると、一行は日の丸の小旗を打ち振る生徒たちの波に埋まった



開通を祝ってプラスチックバンドも一行を迎え、地元の人たちも一緒に喜びを分かち合っていた

なお、午後一時半から秋田県田沢湖町生保内中学校で祝賀会を開き、その席上で両県工事関係者の表彰が行なわれ、両県知事からそれぞれ感謝状が贈られました。